

卓越大学院プログラム現地視察報告書(令和3年度)

卓越大学院プログラム委員会

機 関 名	京都大学	整 理 番 号	2003
プログラム名 称	社会を駆動するプラットフォーム学卓越大学院プログラム		
プログラム責任者	杉野目 道紀	プログラムコーディネーター	原田 博司
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本プログラムは、諸種のデータの収集・加工・分析・活用を担うことができる「プラットフォーム人材」の育成を目的として、令和3年度から学生の受け入れを開始している。現状では主に ICT 技術に関する「プラットフォーム学展望」と、広報としての「プラットフォーム学連続セミナー」が開講されており、特に後者は多彩な分野で活躍する人材を招いて社会経済生活に遍在するプラットフォームの重要性を学生に伝え、発想を刺激することに成功している。設備として、学内外連携機関との実証実験を可能とする高機能 IOT ゲートウェイを整備し、実際にデータのセンシングを稼働させるなどの着実な進展も見られる。 ・しかし、春入学の第1期生の志願倍率は低調である。コロナ禍でオンラインの授業がメインになっていることもあり、プログラム生間の交流や自主企画、共同研究等の機会、国内外の他機関との連携やインターンシップの機会は未だ十分とは言えない状況にある。また、国際的に活躍するための英語でのプレゼンテーション等の指導や、学生のメンタル面でのケアなどをより充実させるという課題も残されている。 <p style="text-align: center;">【大学院教育全体の改革への取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都大学では本プログラムを含め3つの卓越大学院プログラムが採択されており、令和3年10月に総長下に新設された大学院教育支援機構がこれらの卓越大学院プログラムおよび大学院教育全体を統括する形で、分野横断型学位、大学院共通教育、大学院横断コース、国際共同学位、大学院生への経済支援などを整備推進している。 <p>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すでに多くの学問分野において小規模から大規模まで諸種のデータを駆使した研究が常態化している中で、本プログラムの掲げる「プラットフォーム学」の独自性が判然としない。 ・データの収集・加工・分析・活用を高度なレベルで担える人材の育成には、実習を含む専門的な訓練や英語を用いた国際的実践力の強化が必要と考えられるが、本プログラムでは今のところ俯瞰的な視野や関心の拡大に重点が置かれているように見受けられることから、今後はプログラム生の学年進行とともに卓越した人材育成に向けてのカリキュラムの充実化が期待される。 ・令和3年春入学の第1期生に関しては志願倍率が低調であることに対して、今後は学部生や他大学、海外の大学への周知・広報に力を入れることが必要と考えられる。 ・新型コロナウイルス感染症の状況に注意しつつ、企業等を含む現場での実習、海外研修、学生間の交流機会などを拡充していくことが望まれる。 ・令和3年春入学の第1期生から早くも辞退者が出ているようであるが、京都大学が計画している大学院教育支援機構の「修学支援」機能を充実させて、学生の支援を強化することが望まれる。 			